

研究雑話(127)

障害児教育・動作学誌上実習(45)

藤井力夫

姿勢反射の発達とリズム運動の習熟(25)

1回旋2跳躍の持続、「自分のリズム」の内部構造。

前回は、なわとび動作における手足の共同運動、即ち、前腕長軸での縄下ろし運動と長軸先端・母指球部からの伸展性弾力の共同についてお話ししました。習熟したそれには呼吸

が利用されます。呼吸は縄下ろしや弾力発揮に効果し、媒介です。リズム譜では「タンタ」の2ビートで、呼吸と息止め(氣息)が対応します。習熟事例(前号図A)は、1回旋1

と1回旋2跳躍(下)。障害児学級中学1年、男子。なわとびは5、6回で、膝屈曲による跳躍。着床不安定で、呼吸、氣息着床が課題。練習後、連続15回。1回旋2跳躍の反床力波形明晰、強弱・30回(毎分122)。心拍動も強拍に同期(同121)。

2ビート跳躍の評価カテゴリー、4段階:図B-1。パターンA:伸展性弾力を利用。B:膝が曲がってしまう。C:試みるが手や軀幹のレベル。D:連続跳躍自体が課題の段階。

発達連関、パターンAでの不連続。なわとび回数・60回以上、交互開閉動作安定・毎分110:2ビート跳躍・伸展性弾力の持続(パターンA)は、飛躍的な変化をもたらします。

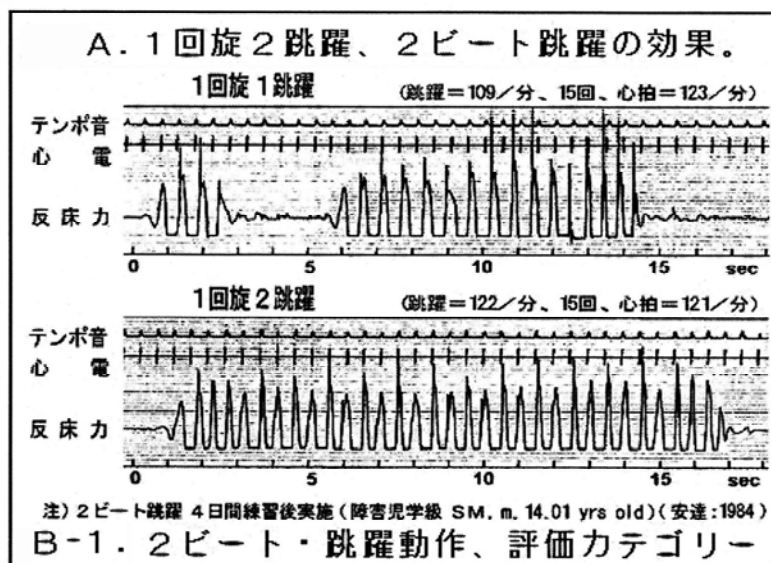
なわとび回数、60回以上(P<0.05)(図B-2)。交互開閉動作もはじめて安定。優先テンポ(好きな速さ)・毎分110回(標準偏差16.7)(図B-3)。たいへん速く・同200回以上。

「自分のリズム」の内部構造、2ビート同期が及ぼす効果:図B-4、段階ごと「リズム同期の容量・平行四辺形」(雑話100参照)。パターンAのそれは他と明白に不連続。跳躍における強弱同期は、跳躍動作の安定(優先テンポ・毎分143)のみならず、速さ調節(たいへん速く・同192)をも可能にさせます。「伸展性」におけるこの習熟は、「交叉性」におけるこの習熟は、「交叉性」

跳躍でしたが、2跳躍1呼吸で、呼吸と氣息の「タンタ」リズムは維持されています。はじめての事例(同B)は、呼吸を利用できず、タイミングがずれ、3跳躍1回旋になった。呼吸着床、氣息着床の習熟にどのような効果が内在しているのでしょうか。今回は、「自分のリズム」の内部構造ということでお話したいと思います。

呼吸着床・氣息着床、2ビート跳躍の効果:図Aは、1日30分、4日間、2ビート跳躍練習後のなわとび・ポリグラフ。1回旋1跳躍(上)

と1回旋2跳躍(下)。障害児学級中学1年、男子。なわとびは5、6回で、膝屈曲による跳躍。着床不安定で、呼吸、氣息着床が課題。練習後、連続15回。1回旋2跳躍の反床力波形明晰、強弱・30回(毎分122)。心拍動も強拍に同期(同121)。



B-1. 2ビート・跳躍動作、評価カテゴリー

パターンA: 弱拍部を手がかりにビート同期。伸展性弾力を利用。
 B: 強拍部を意識し過ぎ、膝屈曲で反応。ビート跳躍可。
 C: 演示を見て試みるが、手や腕、軀幹でのビート模倣。
 D: ビート跳躍以前で、律動的な連続跳躍が課題の段階。

